

研究レポート No.735 岩手県農業研究センター

平成25年の「いわてっこ」の障害不稔発生の解析

平成25年度の「いわてっこ」の不稔歩合の発生は、平年並みからやや高い程度でした。その理由は、低温遭遇期間が短期間であったことや、概ね減数分裂期が低温遭遇時期を回避できたためです。

【1 成果の概要】

- (1) 平成25年の減数分裂期の低温で発生した「いわてっこ」の障害不稔歩合は平均で概ね10~15%でした。
- (2) 各地域の「いわてっこ」の減数分裂期は7月25~31日で、不稔歩合は概ね5~10%でした。
- (3) 減数分裂期の低温遭遇を回避し障害不稔の発生を低減させるには、深水管理の励行と共に移植時期を早めないことが有効な対策です。

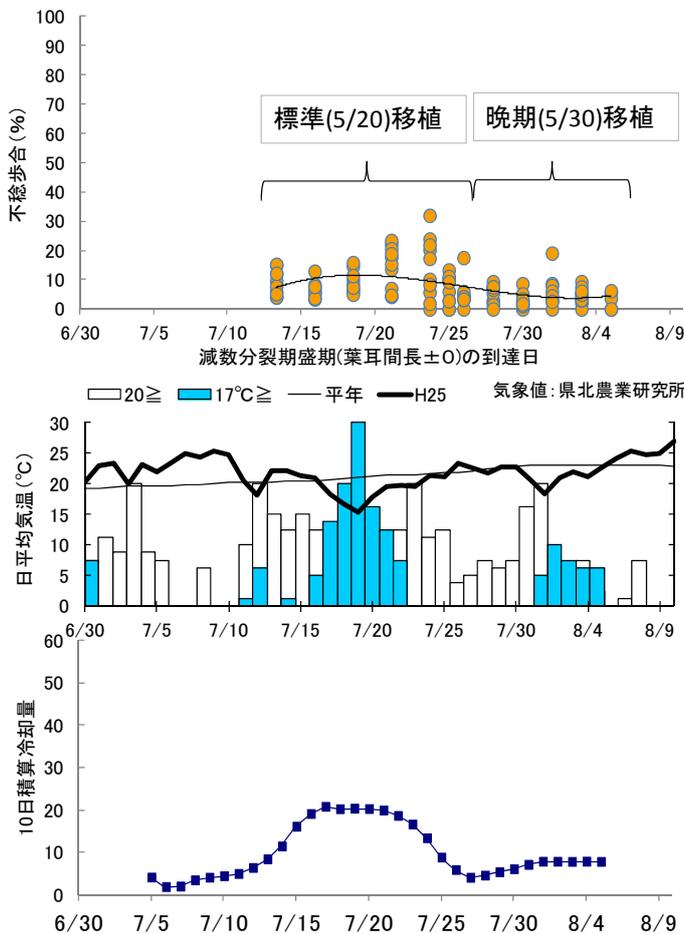


図1 減数分裂期前後の気象経過と不稔歩合 (H25: 県北農業研究所)

表1 冷却量と不稔歩合 (H25: 現地いわてっこ)

地区名	減数分裂期			10日積算冷却量	不稔歩合		
	本年(月日)	平年(月日)	平年差(日)		本年(%)	平年(%)	平年差(%)
沢内・川舟	07/27	07/27	0	2.7	3.4	3.9	-0.5
牽石・御明神	07/25	07/24	1	3.5	6.7	5.9	0.8
八幡平・田頭	07/26	07/28	-2	1.9	3.6	3.0	0.6
岩手・土川	07/27	07/25	2	1.3	3.7	3.1	0.6
久慈・大崎	07/31	08/01	-1	6.9	2.9	7.5	-4.6
洋野・阿子木	07/27	07/27	0	8.5	10.1	6.8	3.3
二戸・沢口	07/25	07/25	0	7.3	10.1	3.0	7.1
軽米・円子	07/29	07/28	1	4.7	7.7	10.0	-2.3

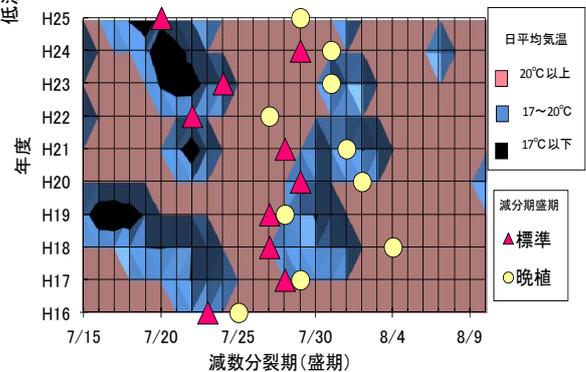


図2 標準移植(5/20)と晩期移植(5/30)の減分期盛期と低温遭遇程度 (県北農業研究所: 水稻作況試験)